

世界と協力して人類の共通の課題の解決に取り組む

# 国連大学サステナビリティ高等研究所

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



### 国連の新しい目標

世界は今、気候変動、生物多様性の喪失、貧困、紛争など様々な問題を抱えています。これらの問題を解決するため、国連の加盟国は2015年ニューヨークの国連本部で「持続可能な開発目標(SDGs)」に合意しました。SDGsは、2030年までにより良い世界を築くための目標で17のゴールが設定されています。この世界の大きな目標を達成するためには、国や地域社会、企業や専門家などすべての人が分野を越えて協力する必要があります。

### 国連大学について

国連大学は、目標の達成に向け日々様々な研究活動や能力開発活動を行っています。日本に本部が置かれている唯一の国連機関である国連大学の東京の本部のほかに、世界12か国に研究所や研究プログラムが存在し、国際機関や研究者のネットワークと協力し、社会的・経済的・環境的側面から問題の独創的な解決策を生み出そうとしています。

### 17目標への取組

国連大学サステナビリティ高等研究所が行う、農業多様性とサステナビリティに関する研究では、農業者が多様な自然環境や社会条件を農業生産に活かしている農業システムの研究を行い、アジアを中心に世界農業遺産の発展に貢献しています。世界農業遺産は、国連食糧農業機関が2002年に開始した仕組みで、地域の多様な自然資源に適応し、地元知識と経験に基づき何世代にも渡って維持されてきた各地域の独創的な農文化的システム全体を認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。2016年現在、15か国36地域が認定され、日本国内でも8地域が認定されています。国連大学は日本で初めて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」がある石川県にも「いしかわ・かなざわオペレー

ティングユニット」として研究拠点を置いています。この拠点では、国際的にも高く評価され保全が望まれる石川の豊かな自然と文化を次世代に手渡してゆくと、「能登の里山里海」の価値を高めるための活動のほか、地域に根ざした研究や活動を柱としています。そしてその成果を持続可能な社会づくりにつながる日本の地方モデルとして、国際社会に発信し、地域からの国際的な課題解決に取り組んでいます。これらの活動を通じて、SDGsの11「住み続けられるまちづくり」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」に貢献しています。

国連大学サステナビリティ高等研究所はこのような活動の実績を活かし、今後も持続可能な未来の構築に向け、研究・政策立案・能力開発に関する活動をさらに進展させ、SDGsの達成に貢献できるよう全力を尽くします。



国連大学本部ビル(東京・渋谷)